

市民が集う「野鳥の森」の再生を目指して
11/25 (土) 第2回「千葉市植樹」を実施

800名のボランティアの皆さまと9,000本を植樹

千葉市（市長 熊谷俊人）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役 以下、当財団）は、11月25日（土）、第2回「千葉市植樹」を実施します。

千葉市と当財団は、2016年2月に「千葉市における森林整備に関する協定」を締結し、3年計画で植樹を行っています。第1回は、昨年5月「富田都市農業交流センター」にて、ボランティア1,200名の皆さまとともに8,000本の広葉樹の苗木を植えました。

第2回となる今回は、日本のさくら名所百選に選定されている「泉自然公園」にて実施します。同公園には森林、草原、水辺等多様な自然環境があり、多くの野鳥を観察することができます。一方、多くのスギが溝腐れ病のため倒木の危険性が高くなっていったことから、市民が安全に自然とふれあうことのできる「野鳥の森」の再生を目指し、800名のボランティアの皆さまと9,000本の植樹を行います。

千葉市と当財団は、これからも地域の豊かな自然と人々の暮らしを守るため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に取り組んでまいります。

記

日 時：2017年11月25日（土） 10:00～12:00

場 所：千葉市若葉区野呂町108 「泉自然公園」

参加人数：800名

植樹本数：9,000本

樹 種：クヌギ・コナラ・サクラなど21種

植樹面積：0.96ha

主 催：千葉市・公益財団法人イオン環境財団

協 力：千葉市森林組合・イオンリテール株式会社

主な出席者：千葉市

市 長 熊谷 俊人

（予定）千葉市議会

副 議 長 村尾 伊佐夫 様

公益財団法人イオン環境財団 理 事 長 岡田 卓也

公益財団法人イオン環境財団 評 議 員 安田 敬一

イオン株式会社 執 行 役 柴田 英二

イオンモール株式会社 代表取締役社長 吉田 昭夫

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,153万本（2017年8月末時点）を超えています。（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

■植樹活動

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生させることを目的として、アジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2017年度は、国内では北海道厚真町、福島県いわき市、宮城県亘理町、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県糸満市平和祈念公園にて、海外ではカンボジア・プノンペン、ミャンマー・ヤンゴン、ベトナム・ハノイにおいて植樹活動を実施します。



■千葉県における当財団の植樹活動について

2016年 第1回「千葉市植樹」

2016年5月4日（みどりの日）に、千葉市富田都市農業交流センター（千葉市若葉区）で第1回「千葉市植樹」を実施しました。地域の皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたちなど、1,200名のボランティアがクヌギ、コナラ、山桜などの広葉樹8,000本の苗木を植えました。



2016年 千葉市植樹

2013年～2015年 千葉県「浦安市植樹」

東日本大震災時の液状化で噴出した土砂の処理が深刻な課題となっていたことを受け、この土砂を土壌の盛土として活用する植樹活動を2013年にスタートしました。3年間の活動を通じ、2,100名のボランティアと合計18,000本の苗木を植えました。



2015年 浦安市植樹

■環境活動助成

1991年より26年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2016年度は、植樹、森林整備、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護、絶滅危惧生物の保護などを行う団体99件に、9,797万円の助成を行いました。累計では2,744件、総額24億9,700万円となりました。2017年も継続して環境活動への助成を実施します。



NPO法人しろい環境塾ドングリ工作 (千葉)

■顕彰 生物多様性アワード

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞 (国際賞)」と「生物多様性日本アワード (国内賞)」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2016年度は第4回「生物多様性みどり賞 (国際賞)」を実施し、2017年度は第5回「生物多様性日本アワード (国内賞)」を実施しました。



第5回「生物多様性日本アワード」受賞式(国連大学)

■環境教育

アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)」を実施しています。

2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学(中国)、インドネシア大学(インドネシア)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)、チェラロンコン大学(タイ)の8ヶ国合計64名の学生が参加し、8月1日～6日の期間、日本で開催しました。



第6回ASEP開講式(早稲田大学大隈講堂)

早稲田大学との連携事業

生物多様性を越えて (Beyond Biodiversity)

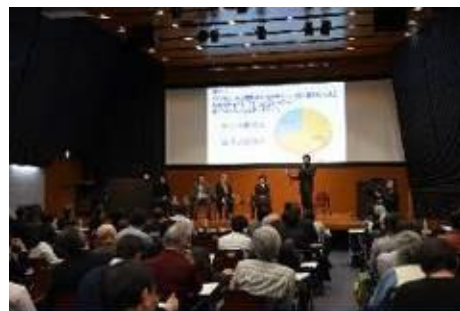
国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とするプログラムです。2016年10月6日～10月7日ベトナム国家大学ハノイ校で初めて開催しました。本年10月13日(金)に、王立プノンペン大学(カンボジア)にて開催しました。



第2回生物多様性を越えて
(カンボジア王立プノンペン大学)

東京大学IR3S ―― イオン未来の地球フォーラム

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行案を議論し、講演と対話型パネルディスカッションにおいて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を本年から開催しています。2018年1月20日（土）には、東京大学安田講堂にて、「第2回イオン未来の地球フォーラム」の実施を予定しています。



第1回イオン未来の地球フォーラム(東京大学)

太陽光発電システムの寄贈

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は昨年に引き続き、中国武漢市の小中学校5校を対象に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈(中国・武漢)



2010年太陽光発電システムの寄贈
(千葉県鴨川市立鴨川中学校)

【その他】

■イオンモール幕張新都心（千葉市）での植樹活動について

2013年11月、千葉市のイオンモール幕張新都心にて「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、森田健作 千葉県知事、熊谷俊人千葉市長をはじめ、地域の方々やお客さま、5,000名で50,000本の苗木を植えました。1991年よりお客さまとともにイオンが植えた木々の数は、同年をもって累計1,000万本を超えました。

2015年4月には、地域のお客さま、および従業員合計900名が参加し、同モールで育樹祭を開催しました。当時植えた木々の生長を確認いただくとともに、植樹場所の清掃・除草作業を行いました。



2013年11月 植樹祭



2015年4月 育樹祭